道徳科の特質を生かした授業改善と評価

いわゆる「道徳の教科化」が求められる背景

教育改革国民会議報告（平成 12 年）
学校は道徳を教えることをためらわない
→学校は道徳を教えることをためらっているのではないか。
人生経験豊かな社会人が教えられるようにする
→　学校の教師だけでは不十分ではないか

教育再生会議（平成 19 年）
徳育を「教科」として充実させ、自分を見つめ、他を思いやり、感性豊かな心を育てるとともに人間として必要な規範意識を学校でしっかり身に付けさせる。

■学校は道徳教育を十分に行っていないのではないか。
■学校によって道徳教育に温度差があるのではないか。

義務教育：子供に受けさせなければならない教育（日本国憲法　第２６条）
すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する

道徳
（道徳の時間）
の教科化

■　全ての学校で、全ての先生が同じ程度に道徳教育、とりわけ道徳の時間の指導をできるようにならないか。
■　全ての子供たちの手元に教科書が行き渡れば、どこの学校でも同じ程度の道徳教育が行われるのではないか。
■　道徳の時間の指導の結果を明らかにして、指導の改善を図れるようにする仕組（評価）をつくれば指導の充実が図れるのではないか。

道徳教育が充実しない背景として考えられること

■　学校の教育活動全体で行う道徳教育については、何を目指して行うか（目標設定）は、学校が独自に考えなければならない。
■　学校の道徳教育の目標に向かって、どのような内容を重点的に行うのか（重点内容項目）を学校独自で決定しなければならない。
■　学校独自の重点内容項目について、いつ、どのような機会に指導するのか、その計画を学校独自で作成しなければならない。
■　道徳の時間について年間３５単位時間に、どのように道徳の内容を充てて指導するのかを学校独自で決めなければならない。

学校で道徳教育を進める際には、学校が主体的に子供の実態や地域の実情など様々な事項を的確に把握して、育てたい子供像を明らかにして目標を設定し、計画を立てて、教職員が共通理解、共通実践できるようにすることが求められる。

学校のカリキュラムマネジメント力　**学校の組織力**　**校長のリーダーシップ**

道徳教育の目標に基づく①②

第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，
道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，
物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，
道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。（中：広い視野から、人間としての生き方）

総則　　**平成27年　学習指導要領一部改正**

道徳教育は，①教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，
②自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。（中：人間としての生き方）

①　教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神　　（例）

教育基本法

教育の目的（第１条）
　人格の完成を目指し，平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行うこと

教育の目標（第２条）
　真理を求める態度を養うこと　　豊かな情操と道徳心を培うことなど

義務教育の目的（第５条第２項）
　各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い，また，国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的

学校教育法

義務教育の目標（第21条第１項）
　自主，自律及び協同の精神，規範意識，公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと
（同第２項）
　生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと
（同第３項）
　伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに，進んで外国の文化の理解を通じて，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと

②　自己の生き方を考える

「自己の生き方」を考える

児童一人一人が，よりよくなろうとする自己を肯定的に受け止め，他者との関わりや身近な集団の中での自分の特徴などを知り，伸ばしたい自己を深く見つめること
⟶　社会の中でいかに生きていけばよいのか，国家及び社会の形成者としてどうあればよいのかを考えることにもつながる。

○　人間としての生き方

人間としての生き方：人間は，自らの生きる意味や自己の存在価値に関わることについては，全人格をかけて取り組むものである。人としてよりよく生きる上で大切なものは何か，自分はどのように生きるべきかなどについて，時には悩み，葛藤しつつ，生徒自身が，自己を見つめ，「人間としての生き方を考える」ことによって，真に自らの生き方を育んでいくことが可能となる

道徳教育の目標に基づく③④⑤

総則　　平成 27 年　学習指導要領一部改正

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，③自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，④自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる⑤道徳性を養うことを目標とする。（中：人間としての生き方）

③　主体的な判断の下に行動する

■　児童生徒が自立的な生き方や社会の形成者としての在り方について自ら考えたことに基づき，人間としてよりよく生きるための行為を自分の意志や判断に基づいて選択し行うこと

■　児童生徒が日常生活での問題や自己の生き方に関する課題に向き合い，考え方の対立がある場合も，自らの力で考え，よりよいと判断したり適切と考えたりした行為の実践に向けて具体的な行動を起こすこと

④　自立した人間として他者と共によりよく生きる

■「自立した人間」としての主体的な自己は，同時に「他者と共に」よりよい社会の実現を目指そうとする社会的な存在としての自己を志向

→　人は誰もがよりよい自分を求めて自己の確立を目指すとともに，一人一人が他者と共に心を通じ合わせて生きようとしている。

→　他者との関係を主体的かつ適切にもつことができるようにすることが求められる。

⑤　道徳性を養う

道徳性とは

■　よりよく生きるための営みを支える基盤となるもの

■　人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性であり，人格の基盤をなすもの

■　人間らしいよさであり，道徳的価値が一人一人の内面において統合されたもの

□　**道徳的判断力**

それぞれの場面において善悪を判断する能力。人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し，様々な状況下で人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。的確な道徳的判断力をもつことによって，それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。

□　**道徳的心情**

道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜び，悪を憎む感情。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情。道徳的行為への動機として強く作用するもの。

□　**道徳的実践意欲と態度**

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

・　**道徳的実践意欲**

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

・　**道徳的態度，**

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳性の諸様相には，特に序列や段階があるということではない。一人一人の児童が道徳的価値を自覚し，自己の生き方についての考えを深め，日常生活や今後出会うであろう様々な場面，状況において，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践することができるような内面的資質を意味している。

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ

第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，
道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，
物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

道徳的価値
■よりよく生きるために必要とされるもの　■人間としての在り方や生き方の礎となるもの
学校教育では，これらのうち発達の段階を考慮して，児童一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要なものを内容項目として取り上げている

児童が将来，様々な問題場面に出会った際に，その状況に応じて自己の生き方を考え，
主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うために道徳的価値の意義やその大切さの理解が必要

道徳的価値の理解
- **人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること**　（価値理解）
- **大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること**　（人間理解）
- **道徳的価値を実現したり，実現できなかったりする場合の考え方、感じ方は多様であるということを理解すること**（他者理解）

道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き，価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

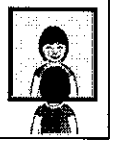
- 道徳的価値の理解のための指導をどう行うかは，授業者の意図や工夫による
- 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには，道徳的価値について理解する学習は不可欠

☒ **特定の道徳的価値の絶対視**　☒ **道徳的価値のよさや大切さの観念的な理解**
児童が道徳的価値を実感を伴って理解できるようにすることが重要

- 道徳的価値の理解を図るには，児童一人一人がこれらの理解を自分との関わりで捉えることが重要
- 人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分事として考えたり感じたりすることが大切

自己を見つめる

これまでの自分の経験やそのときの考え方，感じ方と照らし合わせながら，更に考えを深めること



- 自己を見つめる学習を通して，児童は，道徳的価値の理解と同時に自己理解を深める
- 児童自ら道徳性を養う中で，自らを振り返って成長を実感したり，これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになる
- 道徳科の指導では，児童が道徳的価値を基に自己を見つめることができるような学習を通して，道徳性を養うことの意義について，児童自らが考え，理解できるようにすることが大切
- 道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通した，そのよさや意義，困難さ，多様さなどの理解

物事を多面的・多角的に考える

第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，
道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，
物事を多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。（中学校；広い視野から）

道徳性を養うためには
・児童が多様な考え方や感じ方に接することが大切
・多様な価値観の存在を前提にして，他者と対話したり協働したりしながら，物事を多面的・多角的に考えることが求められる

物事を多面的・多角的に考える学習

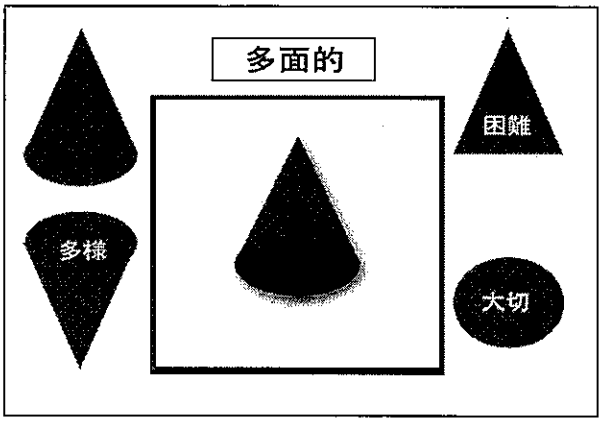
児童は，価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め，更に自分で考えを深め，判断し，表現する力などを育む

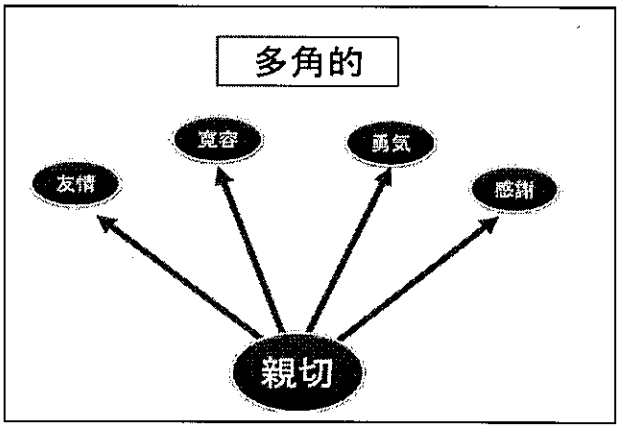
→　道徳的価値の理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考えるという道徳的価値の自覚を深める過程で，道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる。
→　その中で，自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにすることが大切

■　物事を一面的に捉えるのではなく，児童自らが道徳的価値の理解を基に考え，様々な視点から物事を理解し，主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切

例）発達の段階に応じて二つの概念が互いに矛盾，対立しているという二項対立の物事を取り扱うなど，物事を多面的・多角的に考えることができるよう指導上の工夫をすることも大切

例





自己の生き方についての考えを深める

第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，
道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，
物事を多面的・多角的に考え，**自己の生き方についての考えを深める**学習を通して，
道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

↓

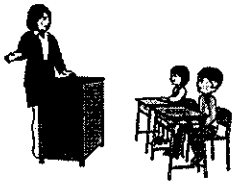
- 児童は，道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める過程で同時に自己の生き方についての考えを深めているが，特にそのことを強く意識させることが重要
- 児童が道徳的価値の理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として，自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすることが大切
- 道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり，自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりすることができるようにするなど特に自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要

↓

- 児童が道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする
- 他者の多様な考え方や感じ方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り，伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする
- これからの生き方の課題を考え，それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする

道徳科では，自己の生き方についての考えを深める学習を，児童の実態に応じて計画的になされるように様々に指導を工夫することが必要

☒ **教師の一方的な押し付け**
☒ **単なる生活経験の話合い**
などに終始しないように特に留意し，相応の指導の計画や方法を講じ，
指導の効果を高める工夫をすることが大切



- **長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ，道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められる**

多様な方法を取り入れた指導

児童の発達の段階や特性等を考慮し，指導のねらいに即して，①**問題解決的な学習**，②**道徳的行為に関する体験的な学習等**を適切に取り入れるなど，指導方法を工夫すること。その際，それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また，特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

①　問題解決的な学習

道徳科における問題 → 道徳的価値に根差した問題（単なる日常生活の諸事象ではない。）

■　問題意識をもって学習に臨み，ねらいとする道徳的価値を追求し，多様な考え方や感じ方を基に学べるようにするためには，指導方法の工夫が大切

➡○　自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考えをもち，友達との話合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習が考えられる

○　教師と児童，児童相互の話合いが十分に行われることが大切，教師の発問の仕方の工夫などが重要

○　話合いでは学習形態を工夫することもでき，一斉による学習だけでなく，ペアや少人数グループなどでの学習も有効

■　問題解決的な学習を行う場合には，その課題を自分との関わりで見つめたときに，自分にはどのようなよさがあるのか，どのような改善すべきことがあるのかなどを，考え，話し合うことを通して，児童一人一人が課題に対する答えを導き出すことが大切。

■　話し合う場面を設定すること，ペアや少人数グループなどでの学習を導入することが目的化してしまうことがないよう指導の意図に即して，取り入れられる手法が適切か否かをしっかり吟味する必要がある

②　道徳的行為に関する体験的な学習

■実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体　的な道徳的行為をして，

札儀のよさや作法の難しさなどを考える

■相手に思いやりのある言葉を掛けたり，手助けをして親切についての考えを深めたりする

読み物教材等の活用

■　その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習

■　単に体験的行為や活動そのものを目的とするのではなく，体験的行為などを通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要

学習状況や道徳性に係る成長の様子の継続的な把握

◇　評価については，児童生徒の成長の様子を把握することを基本。数値評価を行わないことは従前と同様。

(新)児童(生徒) の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。ただし，数値などによる評価は行わないものとする。

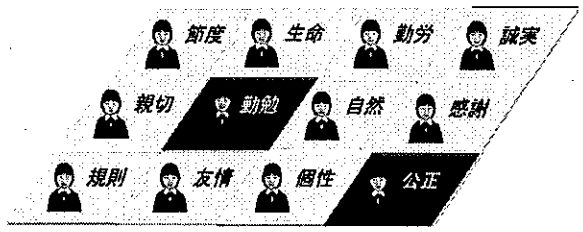
(現行)児童(生徒)の道徳性については，常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし，道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

■　数値による評価ではなく，記述式で あること。
■　他の児童生徒との比較による相対評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め，励ます個人内評価として行うこと。
■　他の児童生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。
■　個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
■　発達障害等の児童生徒についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。

個人内評価の考え方

道徳科における評価　**横断的**

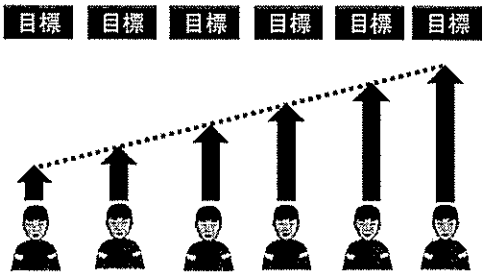
学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握



○個人の目標に向けた学習状況ごとに横並びにして、突出したところをよさと認める　**～でした**

道徳科における評価　**縦断的**

学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握



○学習状況を時間的に縦に並べて、進歩の状況を認める　**～になりました**

児童生徒の学習状況の把握と評価

→　学習指導過程における指導と評価を一体的に捉えることが重要
→　学習指導過程の評価には具体的な観点が必要

確かな指導観を基に，明確な意図をもって指導や指導方法の計画を立て，学習指導過程で期待する児童の学習を具体的な姿で表したものが観点となる。

児童生徒の道徳性に係る成長の様子

（例）・一面的な見方から、多面的・多角的な見方に発展している
　　・道徳的価値の理解を自分との関わりで深められるようになった　など

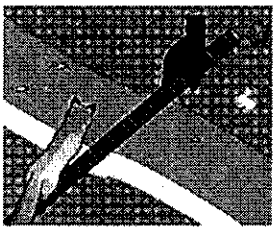
道徳科の評価の例

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

道徳性の評価ではない

子供の実態などから、今日の授業では、親切のよさや温かさを考えさせよう！

指導観



オオカミに自我関与して、クマに親切にされたときの思いを基に親切のよさを考えさせよう！

指導の意図

子供たちはオオカミと自分自身を重ね合わせて親切のよさを考えているかな？

学習状況の把握

Aさんは、登場人物と自分自身を重ね合わせて、親切のよさについて発言してたな。

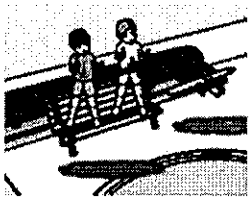
「はしの上のおおかみ」の学習では、親切のよさや温かさを自分事として考えていました。

学習状況

Bさんは、親切のよさを自分事として考えられなかったようね。

次の時間では自分事として考えられるように言葉かけをしよう！

授業改善



今日は登場人物と自分自身を重ねて道徳的価値について考えられた！

「きいろいベンチ」の学習では、みんなで使う物や場所について自分事として考えていました。

学習状況

道徳的価値について自分との関わりで考えることができるようになりました。

成長の様子

児童生徒の学習状況の把握と評価

➡ 学習指導過程における指導と評価を一体的に捉えることが重要

➡ 学習指導過程の評価には具体的な観点が必要

確かな指導観を基に，明確な意図をもって指導や指導方法の計画を立て，学習指導過程で期待する児童生徒の学習を具体的な姿で表したものが観点となる。

道徳科の評価は、子供が道徳性を養うために行う道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める学習状況や，授業の積み重ねとしての成長の様子を対象とします。

考え、議論する道徳授業の構想

読み物資料の心情理解に終始する授業	自分との関わりで道徳的価値を考える授業
●気持ちの変化を捉える ●人物の気持ちに共感させる	○自分自身を見つめる ○人物に共感し自分との関わりで気持ちを想像する
読み物道徳	考える道徳
望ましいと思われること、決まりきったことを言わせたり、書かせたりする	自分との関わりで多面的、多角的に考える授業
●何が大切か ●どうすることが望ましいのか	○どのようわけで大切なのか ○どうすることが考えられるか
押しつけ道徳	考える道徳

考え、議論する道徳

考える
主体的に
自分との関わりで

主体的な学び

多様な考え方、
感じ方と出合い
交流する

対話的な学び

自分の考え方、感じ方を
明確にする

自分の考え方、感じ方を
より明確にする

深い学び

自分との
関わりで

子供が

■　自らを振り返って成長を実感できるように工夫する

■　これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫する

主体的に

道徳性を養うことの意義について，子供自らが考え，理解し，主体的に学習に取り組むことができるようにする

明確な指導観に基づく授業の創造

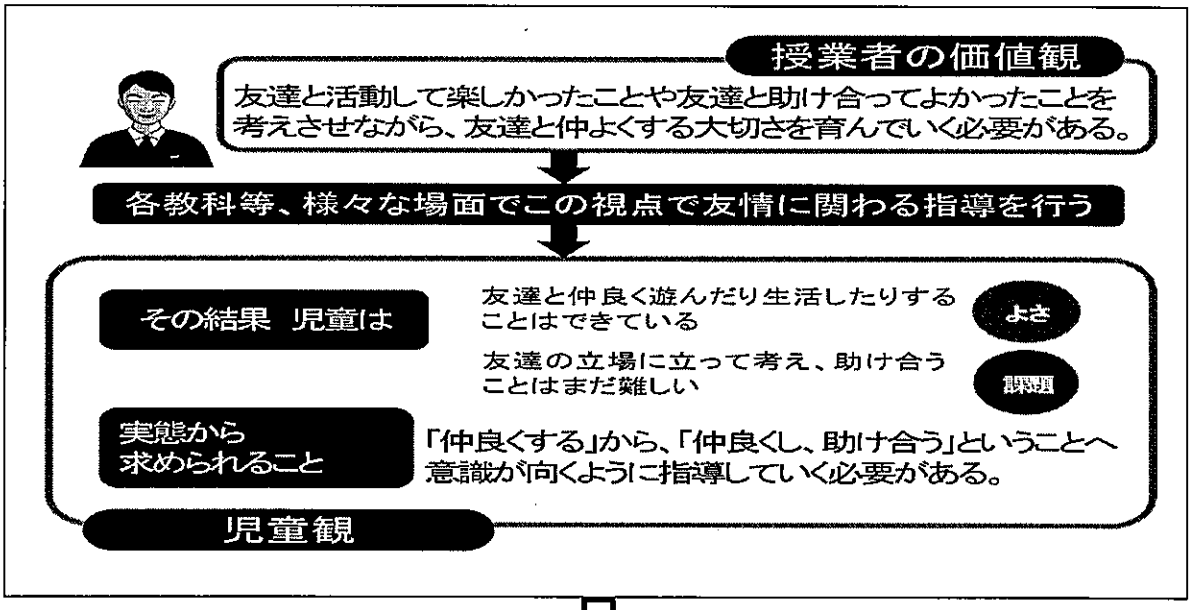
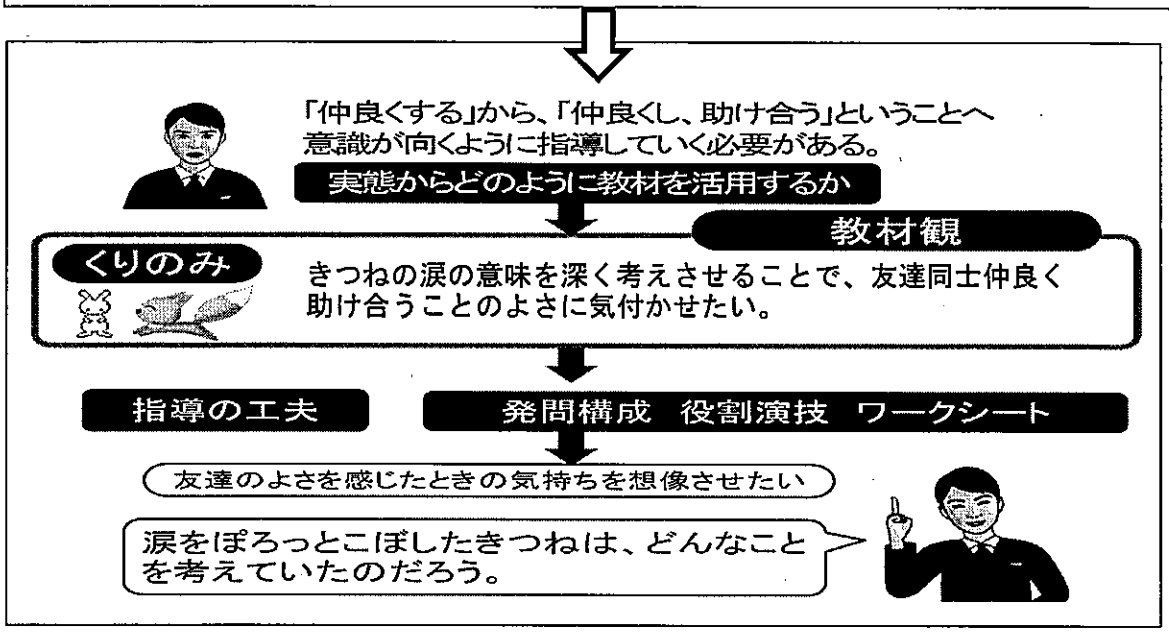
「明確な指導観」をもつとは‥ ：主題設定

1　ねらいとする道徳的価値（内容項目）について、学習指導要領に基づき、明確な考えをもつ。

2　授業者の明確な価値観を基づくこれまでの指導と子供の学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

3　授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかにする。

価値観
児童生徒観
教材観
指導観

これまでの子供のねらいとする道徳的価値に関わる学びとその結果を明確にする

その上で、自分との関わりで考えられる授業を構想し、実践する。